



第8回九州ミッドアマチュア選手権競技

競技報告 (2018/10/17-18)

写真と記事 : M. Kikutake

2オーバー、146

28歳 儀保 和 (美らオーチャード) が初優勝

4人のプレーオフを制して戴冠

第8回九州ミッドアマチュア選手権競技は10月17、18日の2日間、熊本市南区城南町のくまもと城南カントリークラブ(7001㌦、パー72)で行われ、2オーバーの146で並んだ4人によるプレーオフの結果、28歳の儀保和(ぎぼ・やまと、美らオーチャード)が他の3人を下して初優勝した。

9番(パー5)で行われたプレーオフは1ホール目、儀保と小杉竜三(熊本空港、31歳)がパーで上がり、満潮辰一郎(志摩シーサイド、54歳)と荒川英二(福岡雷山、47歳)の2人がボギーとして脱落。2ホール目は、グリーン左のバンカーショットをミスした小杉に対し、儀保はグリーン奥に外したものの2パットのボギーとして小杉を下した。

儀保は九州ミッドアマ選手権最年少優勝。立命館大時代に関西学生選手権を制しているが、自身の九州タイトルは初めて。

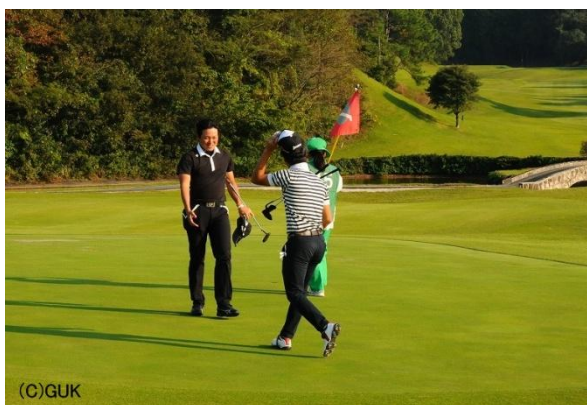


4回目のプレーオフ決着

若手が善戦

九州ミッドアマは8回の選手権の4回がプレーオフ決着となった。

25歳以上の134人(欠場8人)が出場。この夏の酷暑で厳しいコースコンディションになったが、2日間とも晴れ、微風という好天にも恵まれ、1打を争う白熱した試合が展開された。



初日、イーブンパーの72で首位に並んだのが、儀保と米倉雄一郎(浮羽、39歳)、西尾公孝(佐賀、50歳)の3人。これを同選手権、過去3度の優勝を誇る荒川のほか、小杉ら計5人が1打差の4位タイで追った。さらに1打差の2オーバーに5人が並ぶ混戦模様。前回優勝の牛島中(志摩シーサイド、53歳)は3オーバーで14位タイ、過去にアマチュアで九州オープン優勝の実績を持つ大倉清(浮羽、57歳)は今年の九州シニア優勝の山浦正継(志摩シーサイド、66歳)らとともに21位タイ発進。

8オーバー、75位タイまでの85人が最終日の決勝ラウンドへ進出。その最終日、1バーディー、1ボギーのパ

プレーで回った満潮が通算2オーバーで首位に立ってホールアウトすると、後続の荒川が3バーディー、4ボギー、さらに小杉も2バーディー、3ボギーとして並んだ。そして最終組の中から儀保は5バーディー、3ボギー、2ダブルボギーと出入りの激しいゴルフだったが、プレーオフに滑り込んだ。

1打差の5位は永田満（北山、55歳）で、さらに1打差6位は西尾。牛島は7オーバーの12位タイで、日本ミッドアマ選手権出場権を獲得。大倉は9オーバーで榎隆則（大分中央、59歳）、野上英司（ミッションバレー、60歳）らとともに19位タイだった。

第23回日本ミッドアマ（11月14日～兵庫・小野GC）

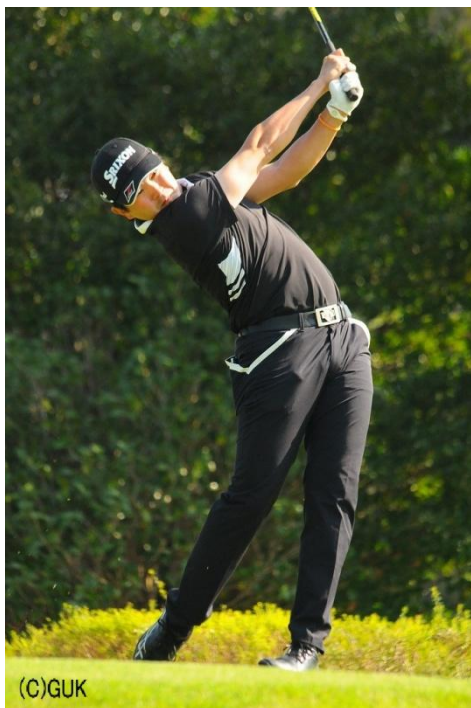
13人が出場権獲得

この試合の結果、11月14～16日、兵庫県の小野GCで行われる第23回日本ミッドアマチュア選手権は、7位タイまでの10人と、11位タイの4人の最終ラウンドスコア比較で上位3人の計13人が出場権を獲得した。



「胸張って帰れます」

平成生まれの最年少優勝の儀保和



(C)GUK

「これまで九州の試合に出場する機会が少なかった。大きな試合で勝てて、うれしい」。首位に並んでの最終日最終組。しかし、前半は1番（パー4）でバンカーに入れたり、3パットをするなど、いきなりダブルボギー。結局は3バーディー、1ボギー、2ダブルボギーの38とスコアを落とした。後半もボギーが先行して、このままでは、と思われた時、17、18番で連続バーディー。辛うじてプレーオフに滑り込んだ。そして、先輩たちを下しての栄冠。喜びが口を突いたのも当然だろう。

沖縄県那覇市出身の28歳。祖父の勧めでクラブを握ったのが始まり。小学6年の12歳から川上典一プロのレッスンを受け、本格的になった。首里高校から立命館大（経営学部）に進学。ジュニア時代は九州ジュニアや高校ゴルフ連盟の試合には出ていたが、そう目立った成績は残していない。大学に進んで2年の時、公式競技の関西学生選手権で優勝、注目されるようになった。2013年、卒業と同時に沖縄テレビに入社、現在は東京支社に勤務している。悩みは、試合に備えての練習も思うようにできないこと。普段の練習は週一程度で、コースにもそう頻繁に出られるわけではない。だから、「身体が衰えないように朝、夜のストレッチやイメージトレを欠かさないようにしている」という。

今回も休みを工面して、練習ラウンドなしのいわばぶっつけ本番。この選手権には、年齢条件が30歳以上から25歳以上になった15年以来、毎年出てい

るが、15年の10位タイから6位タイ、15位タイと健闘しており、それがやっと実を結んだ形だ。

次は2度目になる日本選手権。前回は予選落ちした。今回は兵庫の小野GC。「関西時代に何回も回って慣れ親しんだコース」と言い、秘かに狙いを定めている儀保でもある。



満潮辰一郎（プレーオフの1ホール目パーパットを外し） 荒川君が右に出したのを見て、左に修正したが、引っ掛けてしまった…



荒川 英二（過去この大会、プレーオフは2勝1敗）（ロングパットは）入れに行く気持ちで打った。返しのパーパットはキャディーさんがカップの左寄り、と言ったが、もう少し切れそうでボール1個分外に出したのが…。



小杉 竜三（最終日前半は2バーディーでトップに抜け出したが…後半3ボギー）優勝争いを意識してしびれてしまった。ドライバーが左に飛び出した。身体が動かなくなり、プレーオフまで引きずってしまった。